

学長挨拶

池端雪浦

(東京外国語大学学長)

2002年度から開始された文部科学省の「21世紀COEプログラム」は、我が国の大学に、世界最高水準の研究教育拠点（Center of Excellence）を学問分野毎に形成し、研究水準のいっそうの向上と世界をリードする創造的な人材の育成をめざしています。本学は、「人文科学」と「学際・複合・新領域」の2つの学問分野にそれぞれ1件の申請を行い、人文科学では「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」、学際・複合・新領域では「史資料ハブ地域文化研究拠点」が採択されるというすばらしい結果をえました。本学大学院地域文化研究科の、個性ある研究教育のポテンシャルが高く評価されたことを嬉しく思います。これら二つの拠点は、言語研究と地域文化研究における世界的な教育研究拠点を目指そうとする本学の将来構想の主要な推進力・両輪であると考えられています。拠点活動の開始から2年を経過し、それぞれの拠点の活動は、すでに大きな成果と波及効果を生みだしつつあります。

「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」は、「TUFS 言語モジュール」と呼ばれるインターネットを活用した17言語の多言語ウェブ教材を開発していますが、これは情報工学の基盤の上に言語学と言語教育学を統合させた「言語情報学」という新しい学問領域からの研究であり、拠点形成の中心的な学術的成果です。この拠点を全学的見地から支援するために、学長直属の「21世紀COEプログラム運営室」を設置しています。この運営室は、学長、副学長、研究科長、拠点リーダーをはじめ、大学院を支える学部ならびにアジア・アフリカ言語文化研究所の長、さらに事務局長以下事務局幹部から構成され、部局横断でかつ事務局・教員が文字通り一体となった組織です。運営室は、拠点の支援のために学内諸組織間の連携体制を構築するとともに、総計300平米におよぶスペースの提供や在外調査研究旅費などの学内予算措置をはじめとする支援を行っています。

今後もさらに推進メンバーの方々が精力的にプロジェクトに取り組み、大きな研究成果をあげ、言語情報学拠点から次世代のわが国の言語研究と外国語教育を担う人材が多数輩出されることを願ってやみません。21世紀COEプログラムの成功のために、本学の叡智を結集し、大学全体として協力してゆく所存です。

2004年10月1日